

令和4年度事後調査報告書についての委員意見(白川)

No.	委員からの質問、意見	事業者回答	追加質問	事業者回答
1	P1「2-3 目的」に書かれている3つ目の文章の「・・・アクセス性がよく、事業予定地に土砂の受入地を設けることは、交通渋滞や大気汚染の抑制効果が期待できる。」を理解することが困難です。説明のための重要な言葉が抜けているような感じがしません。	P1「2-3 目的」の4行目「かつ～期待できる。」を以下に訂正致します。 「市街化区域から離れた箇所に土砂の受入地を設けることは、交通渋滞の軽減や大気汚染の抑制につながる。」		
2	P40に「移設先周辺には素掘り側溝や水路があり、動物が成育する状況は維持されていた」との記述がありますが、その状況や規模を示す資料は提示されておらず、判断が困難です。少なくとも、現場の写真などを載せていただければと思います。	今後は素掘り側溝や水路等、現場の写真を添付致します。		
3	(1) 図13が見当たりません。 (2) P39でピオトープ[1]の水量が確保できなかったため、代替地としてピオトープ[4]を創出した、とされていますが、図12に示されているピオトープ[4]はピオトープ[1]とかなり離れた別の場所になっています。ピオトープ[4]を代替地としてどのような理由でその場所に設定したのかについて説明を加えるべきではないでしょうか。ピオトープ[1]の水量が確保できなかった理由も教えてください。 (3) 報告書に示されている写真には全て撮影年月日を記載すべきです。	(1) 図13を図12に訂正致します。 (2) 工事完了区域であること、水を確保しやすい箇所であること、この付近でオタマジャクシやヤゴ等の動物も確認できたことを理由にピオトープ「4」を代替地としてその場所を選びました。今後は事後調査報告書に記載致します。 ピオトープ「3」が移設個体が生息するには小さいと考えられたので、ピオトープ「1」をできるだけ大きく整備したものの、予想よりも湧水が少なく、水量を確保することが困難でした。 (3) 写真には撮影年月日を記載致します。		
4	ピオトープの干上がりは以前から指摘していたと思います。コオイムシが生息する上部の水たまりと称するところが良好な生息地なので、その場所をピオトープとして保全することが望ましいです。干上がるピオトープに移設する方が生物にとって悪影響だと考えます。ピオトープ「3」と称するものは元々の生息地と比較して小さすぎます。元の生息地も含めて全てのピオトープについて面積を示していただけますでしょうか。	元の生息地が改変区域に含まれているため、ピオトープへの移設を進めており、3月に実施した調査(ピオトープ「4」)ではコオイムシを確認しています。 元の生息地の面積は約2㎡～10㎡程度ですが、雨量や季節によって大きさを換え、干上がることもありました。最初に整備したピオトープ「3」の面積は約1㎡、ピオトープ「1」は約6㎡、ピオトープ「4」は約2.5㎡です。 できるだけ水が切れないように当初計画通りにピオトープ「3」を整備しましたが、ご意見のとおり規模が小さかったため、ピオトープ「1」はできるだけ大きく整備しました。しかし、水量の確保が難しかったため、ピオトープ「4」を整備しました。 なお、ピオトープ付近では、素掘り側溝や水路が近接しており、ピオトープと合わせて約5㎡以上の面積に相当するように整備することで、動物が生息する状況を維持するように努めています。	別の質問への回答に「オタマジャクシやヤゴ等の動物も確認できた」とありますが、種名を教えてくださいませんか。ニホンアカガエルかウシガエルかで、対応が180度変わりますので、ヤゴも含めてお願いします。	オタマジャクシがヌマガエル、ヤゴがシオカラトンボです。

5	<p>森林が伐採されたのは第一期工事によるものであり、今回アセスはあくまで第二期のみを対象としている、という理解でよろしいでしょうか。</p> <p>また、第二期では、土砂を投入し植栽をするので降雨の表面流出は低減する方向に変化するため、既存の調整池で十分に対応できるだろうと見込んでいる（ので治水上は問題ない）、という理解でよろしいでしょうか。</p>	<p>第一期工事・第二期工事を含め、アセスの対象です。兵庫県総合治水条例や兵庫県林地開発基準等に基づき、第一期工事に調整池及び土中堰堤を築造しました。第二期工事では関係機関との協議が終了し、さらに2基の土中堰堤を築造しました。調整池は第一期工事及び第二期工事を含めた大きさを整備していますので、治水上問題ありません。</p>		
6	<p>P31「2020/6/29 に移植を行った 164 個体（移植-1）のうち 71 個体が確認できた」と半減以下ですが、それでもいろいろと努力されたのだということは理解できました。</p> <p>ただ、どうしても動植物への影響は不可避だということをお察ししました。</p>	<p>今後も可能な限り環境影響の回避・低減の措置を行ってまいります。</p>		